

園庭における遊びと自然環境に対する保育者の意識について
— 富山県の幼稚園・保育所のアンケート結果から —

Awareness of Childcare Workers Regarding Outside Play
for Children in Kindergartens, Day Nurseries and Natural Environment
- Based on a Questionnaire in Toyama Prefecture -

石倉 卓子 大平 泰子
ISHIKURA Takako OHIRA Taiko

はじめに

子どもの遊びを観察すると、実に様々な形で自己表現を繰り返し、そのプロセスでは素材や道具類、友達や大人とのかかわりが子どもの表現に影響を与えていることが経験的に明らかである。就学前の子どもの遊びは屋内・屋外問わず展開され、遊びとそれに伴う表現活動はあらゆる環境からの刺激と密接につながっている。

しかし、近年は幼児・児童への犯罪も多発し、子どもたちが安心して戸外で遊ぶことができない状況も見受けられる。家庭では玩具やゲームが溢れ、遊び場の不足などで、都市部を中心に室内での遊びが増加している。最近の調査では、「よく遊ぶ」が最も多い場所は「自宅」で95.1%、次いで「児童館や児童公園などの公共の遊び場」が15.1%という報告がなされており¹⁾、屋外で思い切り遊んだり、直接自然と触れ合ったりする機会が少ないことがわかる。

一方、保育所や幼稚園での遊びに目を向けると、保育者は子どもが表現する喜びや充実感を味わえるような保育環境を日々計画的に整える努力をしており、屋内での遊び、園庭での遊びともに、時間的・空間的にある程度保障されていることが推察できる。近年、保育所等が守るべき施設の最低基準についての議論がなされているが、家庭や地域での遊び場が減少している中で、保育所・幼稚園での生活や遊びの場を保障することは、いや増して必要になるのではないだろうか。

さて、ここで園庭での自然環境にかかわる遊びに着目すると、これまで、およそ次のような様子が見受けられた。砂場の中にぐっと手を入れて、砂の質感やひやっとした温度を楽しむなどの「感触を楽しむ」遊び、雨が落ちたときの水たまりの波紋を見るなどの「視覚的な変化を楽しむ」遊び、石を池に落としたときや、枝と枝を鳴らすなどの「音を楽しむ」遊び、ハーブでジュースを作るなどの「匂いを楽しむ」遊び、赤土を乾かして固くして遊ぶなど、質感を変化させて「触覚的な変化を楽しむ」遊びなどがある。これらの遊びは、言うまでもなく五感に基づく感覚的な要素が強い遊びであり、単独でそのものを楽しむ場合もあれば、遊びとして表現の過程で現

れる場合もある。それ以外には、砂場で山や川を作る、土や葉っぱや小枝でケーキを作るなどの「具体的にイメージしたものを作る」遊び、たまたまできた物でお店屋さんごっこに発展したり、始めから団子屋さんをしようとして泥団子を作ったりするなどの「ごっこ遊びに必要な物を作る」遊びがある。これらの遊びは、思いや考えを具体的な形にする要素が強い遊びであると言えよう。

横山 (2004)²⁾の研究によると、園庭は、自然と向き合いながら生きるための力を育てる貴重な場であり、自然環境を取り入れた園庭は、地形、規模、形態、素材等の環境構成要素により多様な遊びの場を提供していること、幼児の主体的遊び環境として、自然環境型遊び空間をもつ園庭は、築山のある場、起伏のある場、樹木のある場、水のある場があり、それらが複合的に構成され、遊びのきっかけや拠点を見出して、多様な遊び場を提供する冒険的遊び空間として幼児に働きかけていること、自然環境要素で構成された園庭は、単に機能性を優先した限定的な遊び空間ではなく、幼児自ら主体的に遊びの発見、創造、拡がりを促す遊び空間であり、幼児の体力と感性を育む遊び環境となっていることなどが言及されている。さらに、自然環境型の園庭は、遊具・道具性を強く発信している既設の遊具以外に多様な遊びの場が拡がり、その誘発要因の多くは素材・素形性、自然性、回遊性であり、それは遊びの創出へと繋がって、樹木、築山、小屋、遊具等の配置や活用が効果的に働いていること、自然環境型の園庭における遊びの場は、空間規模より自然環境によって有効性を発揮すること、などが報告されている。また現在は、自然に親しむ保育による「育つ力」の実証研究 (田尻 2009～) など、様々な切り口から保育所や幼稚園での自然を通した保育について検討がなされている状況である。

以上のことから、園庭での遊びは子どもたちの育ちにとって有用な可能性を秘めており、そこで展開される遊びも様々な要素がかかわり合って生み出されていることが推察できる。自然材を利用した遊びも物的環境の側面からみると、素材同士が相互にかかわりあって成り立っている遊びと言えるだろう。保育所や幼稚園の園庭には遊びの多様な要素が存在しながらも、それらの環境が子どもたちの園生活に受け入れられ、遊びに十分生かされているかという視点については、検討の余地があると感じている。なお、自然材とは、風や光も含め、子どもの遊びの中でみられる自然の材とする³⁾。

研究の目的と内容

子どもにとっての保育環境は、前述したように、人的環境、物的・空間的環境、それらを取り巻く社会環境すべてがかかわっている。谷田 (2005) は、保育の分野での環境を物的環境 (社会環境、自然環境、園内の設備、教材、素材) と心理的環境 (主として人間関係、雰囲気など) とに大別している⁴⁾。本研究では、園庭での物的環境の中でも特に自然材に目を向け、保育所や幼稚園での自然遊びの現状と保育者の自然環境に対する意識についての概観をつかむことにした。長期的には子どもの育ちにつながる自然材の可能性や園庭という空間をさらに生かしていく方向性を探ることができればと考えている。もちろん、保育所や幼稚園での自然遊びを考察しようとする場合、子どもの感性⁵⁾や目的意識、保育者自身の自然遊びの経験、職場の理念にかかわる保育計画などの視点も関連することが予想されるが、本研究では自然材を窓口に、主に①子どもの遊びによく用いられる自然材とその理由、②園庭の物的環境 (設置率)、③自然遊びの意義につい

ての保育者の意識、およびこれらの項目間の関連について考察する。

研究の対象と方法

調査対象は、富山県内の全保育所・幼稚園 415 ヶ所である。「自然遊びに関するアンケート」を郵送法により実施した(図 1)。調査期間(回収期間)は平成 19 年 8 月 25 日から 10 月中旬、回収数は 309 (回収率 74.4%)であった。アンケート記入に際しては、担任保育者に記入願う旨、依頼文に添えた。また、アンケート集計結果の返送希望数は 211 (68.2%)であったが、富山県の保育の現状を共有する意図で、簡単な集計結果を 2008 年 3 月・4 月に全保育所・幼稚園 415 ヶ所に送付した。なお、アンケートでは、水、砂・土、草花や木、風、光、石、雪についての表記を回答者にわかりやすいよう「自然物」としているが、本研究では「自然材」として分析し、記述する。統計学的検討には、 χ^2 独立性検定(Chi-square test for independence)、ピアソンの相関係数(Pearson's correlation coefficient)を用いた。

「自然遊び」に関するアンケート

☆ このアンケートは研究以外の目的には使用しませんので、幼児の日常の姿をありのままにお答えいただければ幸いです。

☆ 表記にあたっては、該当箇所に○をつけてください。空欄にはお手数ですが、ご記入をお願いします。

アンケートをご記入いただく先生について

【性別】 男 ・ 女 【年代】 20代 30代 40代 50代 60代
 【地域】 () 市・町・村 【担当】 未満児 年少児 年中児 年長児 その他
 【職場】 保育所 ・ 幼稚園 【管轄】 公立 ・ 私立

1 保育所や幼稚園で、子どもたちはどのような自然物の遊びをよくしていますか?季節を問わず、該当するものを全てに○をつけてください。

水 砂・土 草花や木 風 光 石 雪

2 上記で○をつけた中で特によく見られる遊びは何ですか?上位3つをお書きいただき、その理由を下記から選び、○をつけてください。(複数回答可)

() 理由 アイウエオ(具体的に)
 () 理由 アイウエオ(具体的に)
 () 理由 アイウエオ(具体的に)

<理由>

ア 保育所や幼稚園にそのような環境が整っているから
 イ 保育所や幼稚園以外の環境によく出かけて行って遊ぶから
 ウ 保育者がその自然物を積極的に準備したり、保育に取り入れたりするから
 エ 子どもが扱いやすい素材だから
 オ その他

3 下記の自然遊びで、子どもたちがしている遊びはどのようなものがありますか?

・風を使った遊び ()

・太陽光を使った遊び ()

・石を使った遊び ()

裏面へ

4 保育所や幼稚園の庭には、どのような環境がありますか?
 該当するものを全てに○をつけてください。

手洗い場 砂場 地面 雑草 花壇 大木 石
 山 川 池 プランコ 滑り台 雲梯 その他()

5 自然と触れ合って遊ぶことについて最も当てはまると思われるものを5つに○をつけてください。

① 自然を大切にすることが育まれる。
 ② 心身が解放され、安定する。
 ③ 感性が豊かになる。
 ④ 五感が研ぎ澄まされる。
 ⑤ 様々な表現方法が身に付く。
 ⑥ 科学的な目が養われる。
 ⑦ 造形的な技術が身に付く。
 ⑧ 自然環境を継承することにつながると思う。
 ⑨ コストがかかるため、山川海など自然の中で遊ぶほうがよい。
 ⑩ 衛生面が気になるので、汚れないように遊ばせるのがよい。
 ⑪ 危険が多いので、教育的効果はあまりないと思う。
 ⑫ その他()

ご協力ありがとうございました。

アンケート結果の送付を、 希望する ・ 希望しない
 (どちらかに○をお付けください)

図 1 自然遊びに関するアンケート

(1) 回答者の基本属性

回答者の性別は、男性 12 名(3.9%)、女性 290 名(93.9%)、不明 7 名(2.3%)、年齢については、20代 48 名(15.5%)、30代 54 名(17.5%)、40代 89 名(28.8%)、50代 112 名(36.2%)、60代 3 名(1.0%)、不明 3 名(1.0%)であった。また、担当については重複回答とし、未満児担当 23 名(7.4%)、年少児

担当 72 名(23.3%)、年中児担当 74 名(23.9%)、年長児担当 94 名(30.4%)、その他 97 名(31.4%)、不明 13 名(1.4%)であった。その他については、添え書きで 2~4 歳児 10 名、3・4 歳児 12 名などの回答があったことから、保育所での縦割り保育における複数学年担当者も含まれる。

回答者の年代と担当学年については、担当の項目において重複回答及び不明であった回答者を除外し、内訳を図 2 に示した。全回答者の 85.4%の内訳となるが、年長児担当が多く、担当学年別では、未満児・年少児・年長児で 40 代が多い。年中児では 20 代・30 代が 5 割を超えている。なお、学年別のクラス編成は、幼稚園で多いと思われる。保育者の年代別データに関する分析は図 10 に関連して後述する。

地域ごとの回収数・回収率については、表 1 のように、10 市 4 町 1 村からの回答となった。地域によって回収率に著しい偏りはみられず、富山県内全域における保育所・幼稚園の実態をほぼ反映した調査結果が得られたものとする。また、後述する「4 結果と考察」において、草花や木、雪、風、光の遊びについて触れるため、参考までに富山県の自然についての簡単な概況を述べておくと、自然の豊かさを知る目安である植生自然度が本州一であり、四季を通して降

水量が多い。対馬暖流の影響で冬でも気温が氷点下になる日は少なく、太平洋側のように木枯らしが吹くこともない。11 月~3 月は東京に比べて日照時間が少なくなるが、4 月~10 月にかけてはむしろ多くなる。特別豪雪地帯の立山町を擁するが、平野部の積雪は意外に少ない⁶⁾。

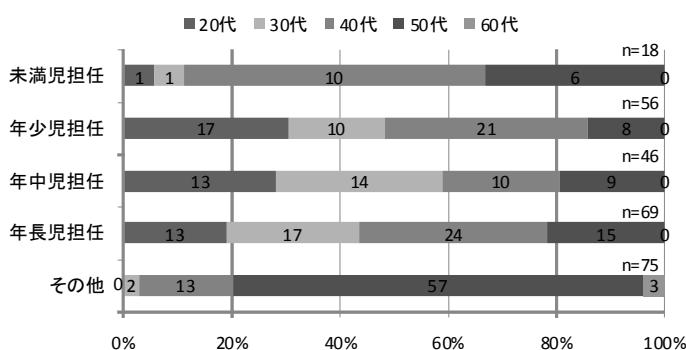


図 2 回答者（保育者）の年代と担当学年

表 1 回答のあった地域と富山県の保育所・幼稚園数（市町村別）

地域	施設数	回収数	回収率	地域	施設数	回収数	回収率
富山市	133	118	88.7%	滑川市	17	12	70.5%
高岡市	59	34	57.6%	小矢部市	15	9	60.0%
射水市	32	25	78.1%	立山町	12	9	75.0%
南砺市	32	23	71.8%	上市町	10	8	80.0%
砺波市	22	18	81.8%	入善町	14	8	80.0%
氷見市	22	15	68.1%	朝日町	6	2	33.3%
魚津市	20	14	70.0%	舟橋村	1	1	100.0%
黒部市	19	13	68.4%				

※施設数は2007年8月現在の保育所(園)・幼稚園数

(2) 施設の種別

回答のあった施設種別をみると、公立 188 カ所、私立 115 カ所、不明 6 カ所 で、保育所 234 カ所、幼稚園 72 カ所、不明 3 カ所であった。また、属性をより詳しくみると、公立保育所 153 カ所、私立保育所 76 カ所、公立幼稚園 34 カ所、私立幼稚園 38 カ所、不明 8 カ所という集計結果であった。アンケート送付総数は保育所 319 カ所、幼稚園 96 カ所であり、回答のあった保育所・幼稚園比 (3.2:1) からみると、ほぼ同率であった。

結果と考察

(1) 施設でよくみられる自然材の遊び

子どもの遊びによく用いられる自然材については複数回答としたが、9割以上の保育者が「砂・土」「水」「草花や木」「雪」を選んだ。内訳を見ると、「砂・土」は100.0%、「水」は98.4%、「草花や木」は96.1%、「雪」は90.6%であった。「石」「風」「光」はそれぞれ41.2%、37.3%、18.2%と低率であった。石については、見立て遊びや構成遊びの記述が多く見られたが、危険が伴う場合が考えられる。風や光については固体や液体ではないため子どもがとらえにくく、そのもので直接遊ぶというよりは利用して遊ぶという特性をもつ。記述でも風車や影踏みが大半を占めた。

特によく用いられる自然材については上位3つの回答としたが、「砂・土」が99.3%と群を抜いた。これは後でも触れるが、かつて砂場の設置が幼稚園設置基準で義務づけられていたことと、砂場の設置率が高いこと、富山県の保育において砂遊びが子どもの発達をうながすという理念の定着が要因と思われる。次いで、「水」が88.5%、「草花や木」が82.6%と続いた。保育所では幼稚園よりも衛生面に留意する傾向にあると感じていたが、砂・土遊びをすることと衛生面に留意することとは別次元の問題であることが推察できる。(6)で触れるアンケート結果でも、「衛

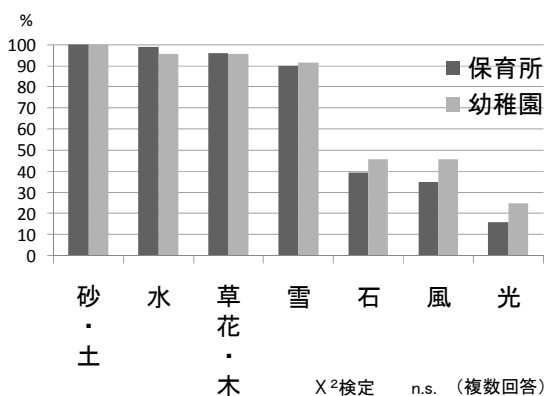


図3 子どもの遊びによく用いられる自然材 (保育所/幼稚園)

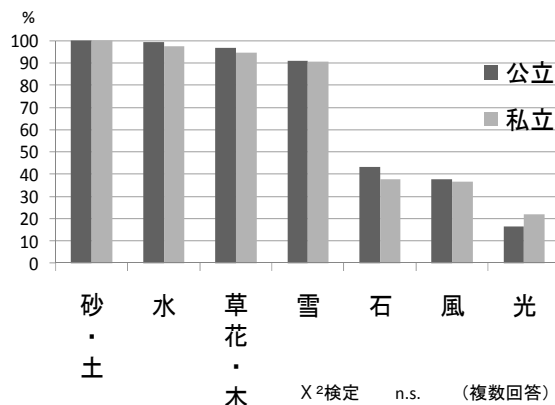


図4 子どもの遊びによく用いられる自然材 (公立/私立)

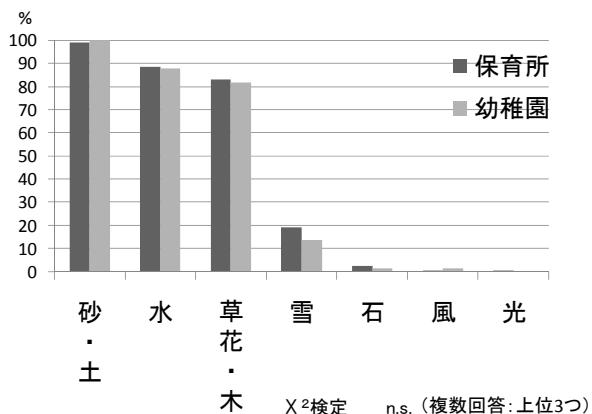


図5 特によく用いられる自然材 (保育所/幼稚園)

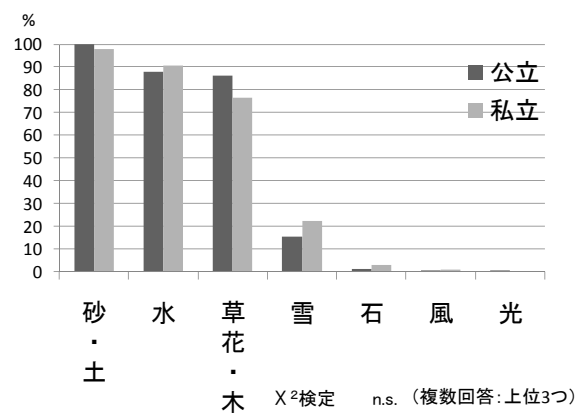


図6 特によく用いられる自然材 (公立/私立)

生面が気になるので、汚れないように遊ばせるのがよい」と答えた保育者は0名であった。子どもの遊びによく用いられる自然材、特によく用いられる自然材について、保育所・幼稚園別、公立・私立で比較したところ、両者とも有意差は認められなかったことから、施設種別において子どもの自然遊びの傾向には大差ないとみることもできる(図3～図6 χ^2 検定、n.s.)。

(2) よくみられる遊びの理由

アンケートでは、よくみられる遊びの理由として、「ア 保育所や幼稚園にそのような環境が整っているから」「イ 保育所や幼稚園以外の環境によく出かけて行って遊ぶから」「ウ 保育者がその自然物を積極的に準備し、保育に取り入れているから」「エ 子どもが扱いやすい素材だから」「オ その他」から選択する方式をとった(複数回答)。項目の選定は筆者の経験によるものであり、園庭の物的環境の影響や保育者の自然遊びに対する援助の意識、子どもの表現にかかわるものとして意識的に挙げた。「砂・土」「水」「草花や木」「雪」については、いずれもアの理由が1位を占めた。次いで、「砂・土」「水」はエ、「草花や木」「雪」はウを選んだ保育者が多かった。これは、「砂・土」は可塑性に富んだ特性があり、季節を選ばず比較的どこにでもある自然材であり、「水」も多様な操作が可能であること、「草花や木」「雪」は季節に大きく影響し変化がある自然材であることから、保育者が意識しないと保育に取り入れにくいことが考えられる。また、「草や木」については、他の自然材と比べてイの理由が多いことから、園庭にはない、地域の自然環境を活かした保育に取り組んでいる様子がわかる。

(3) 園庭の物的環境

かつて、保育所や幼稚園はそれぞれ児童福祉施設最低基準と幼稚園設置基準において、滑り台、ブランコ、砂遊び場は備えなければならない園具・教具として義務づけられていた。幼稚園に限って言えば、水遊び場、手洗用設備、足洗用設備は現在でも基準に相当する。また、幼稚園では運動場の面積が学級数で、満2歳以上の幼児を入所させる保育所では屋外遊び場の面積が幼児1人につき定められ、園庭に相当する場については幼稚園の方が若干広い基準となっている。近年、設置基準の一部改正により規定は大綱化されてはいるが、これらの現状を踏まえて考察する必要

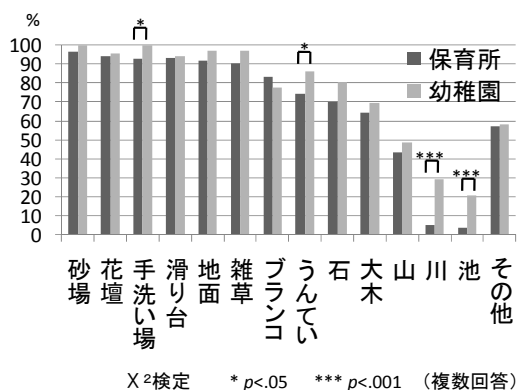


図7 園庭の物的環境 (設置率)
(保育所/幼稚園)

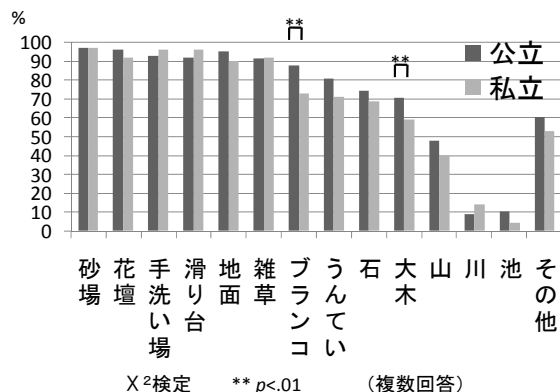


図8 園庭の物的環境 (設置率)
(公立/私立)

がある。保育所と幼稚園を比較すると、手洗い場・うんてい ($p<.05$)、川・池 ($p<.001$)では有意差が認められ、幼稚園の設置率が有意に高かった(図7)。うんていや川、池などは、乳児がいる保育所では危険性も高く、また幼児期の心身の発達にふさわしい環境であるにとらえている園が多いのではないかと考える。公立と私立で比較すると、ブランコ、大木について有意差が認められ、公立の設置率が有意に高く、興味深い(図8 $p<.01$)。全国私立幼稚園でのブランコ設置率は平成13年現在で80%弱であり、保育者代表、設置者、園長ともに95%が必要と答えている⁸⁾。その第一の理由は「子どもが好きであるから」であるが、ケガや事故が起こりやすい固定遊具の有用性は園によって意識の差が大きいにとらえている。

(4) 自然と触れ合って遊ぶことに関する保育者の意識

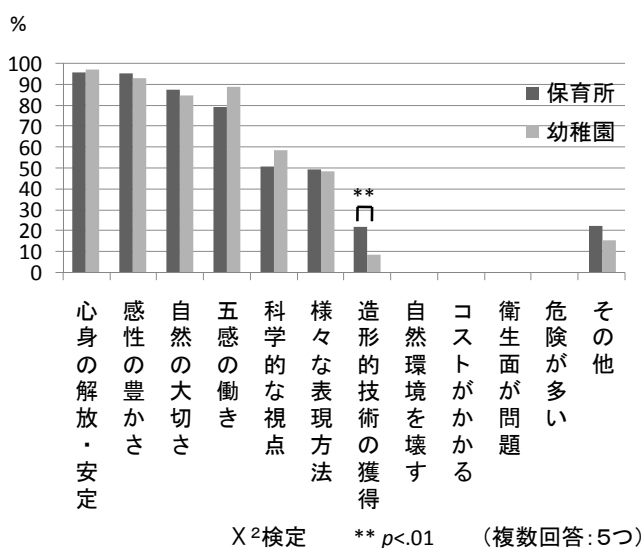


図9 自然遊びの意義に関する保育者の意識 (保育所/幼稚園)

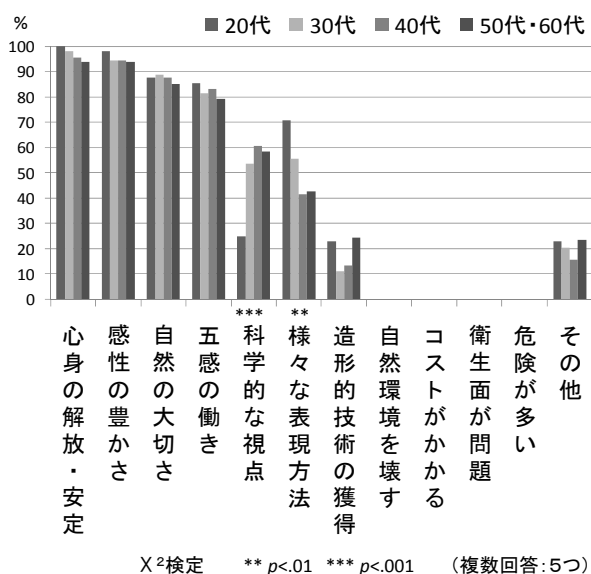


図10 自然遊びの意義に関する保育者の意識 (回答者の年代別)

該当率が高い順に、「心身が解放され、安定する」「感性が豊かになる」「自然を大切にする心が育まれる」「五感が研ぎ澄まされる」という結果となった。思考や技能にかかわる項目よりも情緒や感性の育ちにかかわる項目が群を抜いた。また、アンケートでは12項目から5項目を選択する方式をとった。この意図は、上記の4項目は選択されるだろうとの予想のもと、あと1項目の選択について結果を得ようというものであった。予想されたのは、「様々な表現方法が身に付く」「科学的な目が養われる」「造形的な技術が身に付く」のうちからの1項目である。分析の結果、「様々な表現方法」「科学的な視点」はほぼ同数で、次いで「造形的な技術」であった。保育所と幼稚園では、「造形的な技術」で有意差が認められ(図9 $p<.01$)、新たな現状をつかむことができた。

また、公立と私立では有意差は認められず、年代別の比較では「科学的な視点」「様々な表現方法」で有意差が認められた(図10 $p<.001$ 、 $p<.01$)。「科学的な視点」は若年層で低く、「様々な表現方法」は若年層で高い傾向となった。これは、目に見える子どもの表現は経験の浅い若年層であつてもとらえやすく、表現

するために大切な要素が自然と触れ合う中にあると感じているためではないかと考える。また、年齢を経るにしたがい、自然環境を通じた経験が積み重なり、子どもの遊びを科学的な視点からもとらえられるようになるためではないだろうか。なお、60代は3名と少数であったため、50代とデータを結合して検討した。

興味深かったのは、(2)で挙げた「砂・土」の遊びがよくみられる理由として、「保育者がその自然物を積極的に準備し、保育に取り入れているから」と答えた保育者とその項目を選択しなかった保育者とを比較すると、「科学的な視点」で有意差が認められたことである(図11 $p<.05$)。

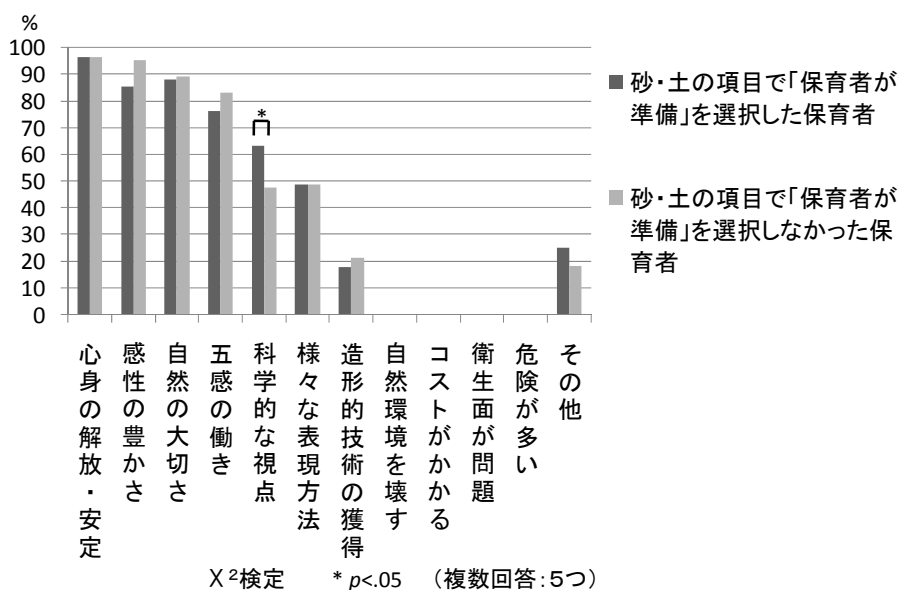


図11 砂・土遊びがよくみられる理由と自然遊びの意義

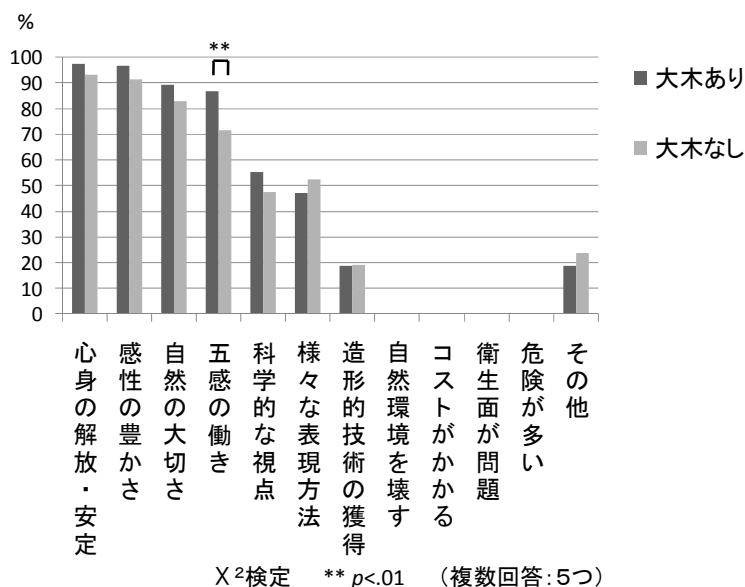


図12 大木の設置と自然遊びの意義

つまり、砂・土を積極的に保育に取り入れている保育者は、そうでない保育者よりも、自然遊びによって「科学的な目が養われる」と考えている人が多い、ということである。また、大木が設置されている施設の保育者は自然遊びの意義として、「五感が研ぎ澄まされる」を選んでいる人が多いという結果が出た(図 11 $p<.01$)。保育者が大木という物的環境について子どもの育ちにとっての意義を感じていることがうかがえる。(3)において、公立で大木の設置率が有意に高いが、公立の回答者は全回答者の約 6 割に相当する。

さらに、園庭の物的環境と自然遊びの意義についての相関を検討した(表 2、Pearson の相関係数)。適切な分析法と言えるかどうかは検討の必要があるが、全体の概略を知る一つの方法とした。結果をみると、「手洗い場」があることは、「感性が豊かに」「心身の解放・安定」と弱い相関が、「砂場」があることは、「感性が豊かに」「心身の解放・安定」と相関が、「五感が研ぎ澄まされる」と弱い相関が認められた。また、「地面」「雑草」があることは、「感性が豊かに」「心身の解放・安定」と弱い相関が、「花壇」があることは、「心身の解放・安定」「感性が豊かに」と弱い相関が、「ブランコ」があることは、「心身の解放・安定」と弱い相関が認められた。さらに、「滑り台」があることは、「心身の解放・安定」「感性が豊かに」と弱い相関が、「その他」の設備があることは、「心身の解放・安定」と弱い相関が認められた。

この結果から、園庭の環境は総体的に、感性が豊かになり、心身が解放され安定する場であると保育者がとらえていることが推察される。しかし、該当率の高い項目同士で相関が出ているため、意味のある結果とは言い難い面もある。なお、「自然環境を壊す」「コストがかかる」「衛生面が問題」「危険が多い」を選択した保育者は 0%であったため、検討から除外した。また、「川」「池」についても全ての項目で相関が認められなかったことから、表記から省いた。

表 2 園庭の物的環境と自然遊びの意義

	園庭の物的環境											
	手洗い場	砂場	地面	雑草	花壇	大木	石	山	ブランコ	滑り台	うんてい	その他
自然遊びの意義												
自然の大切さ	.118	.180*	.126*	.027	.084	.090	.065	.036	.047	.134*	.064	.062
心身の解放・安定	.319***	.495***	.278***	.247***	.331***	.103	.139*	.147**	.257***	.356***	.129*	.202***
感性の豊かさ	.328***	.514***	.285***	.252***	.275***	.110	.085	.034	.197***	.295***	.081	.156**
五感の働き	.178**	.238***	.137*	.104	.152**	.187**	.137*	.125*	.062	.112*	.077	.051
様々な表現方法	.122*	.119*	.058	.100	.053	-.050	-.050	.020	-.019	.020	-.051	-.111
科学的な視点	.084	.091	.105	.052	.130*	.074	.085	.003	.085	.173**	.053	.113*
造形的技術の獲得	-.102	-.026	-.101	.051	.000	-.005	.036	.002	.072	.025	.006	-.010
その他	.052	.083	.073	.003	.082	-.061	.078	.079	.046	-.030	.066	.122

園庭の物的環境(設置なし 0、設置あり 1)、自然遊びの意義(選択なし 0、選択あり 1)として回答を数値化
 表中の数値は相関係数 * $p<.05$ ** $p<.01$ *** $p<.001$

まとめと今後の課題

もとより遊びは素材別に分けることはできないが、自然材を窓口の研究を進めた結果、9割以上の保育所(園)や幼稚園で、砂・土、水、草花や木、雪を活かした遊びを行われていること、砂場、花壇、手洗い場、地面、雑草などの物的環境が9割以上整っていることが確認された。そして、保育者の直接的な援助よりもそれらの環境が整っていることが、砂・土、水、草花や木、雪の遊びが生まれる一番の要因である、と保育者が認識していることも明らかになった。この結果から、保育所や幼稚園では園庭の物的環境の存在意義は大きく、環境を通して行う保育・教育の重要性が感じ取れる。また、砂場や大木など一部の物的環境については、保育者が子どもの育ちに関しての意義を感じている点も明らかになった。もちろん、本研究では子どもの内面の検討はなされていないため、この結果は保育者側の結論となる。ただ、前述したように、子どもの遊びの要因には様々な人的・心理的環境がかかわっており、保育者がいるという安心感や大好きな友達の存在が環境に目を向けさせるという観点も考えられる。物的環境の影響とあわせて、子どもの側からも環境と向き合う動機やかかわり続ける要因について幅広く検討する必要がある。

本研究では、自由記述に関する分析は行わなかったが、その中から自然材の遊びに関するとらえについて興味深い記述がみられた。「しゃぼん玉遊び」は多く見られた遊びの一つだが、風の遊びと答えた保育者、光の遊びと答えた保育者、水の遊びと答えた保育者がいた。これは、「なにに興味があるのか、なにを今経験しているのか」という対象に対する保育者のとらえ方の違いと考えることができる。つまり、保育者の素材観、子どもの遊びをとらえる感性が大きく影響しているということである。「ブランコで風を感じる」という記述からは、ブランコや滑り台、うんていなども間接的に自然材と触れられる固定遊具として考えることで、園庭の環境をさらに活かすことができることを示唆している。「海が近いので砂に不自由しない」という記述からは、地域の特性を活かした保育の可能性も感じられる。日本は自然が豊かであるにもかかわらず自然保護の思想が貧困であり、自然と親しむ教育も不十分であるとも言われている⁹⁾ことを鑑み、園庭以外の自然環境の活用を家庭や地域の活動も含めて考えていく必要があると思われる。また、「紫外線の関係で日光浴はしていない」「園庭の石は拾っているので、石蹴り遊びはしない」との記述に見られるように、自然材に対する危険性についても改めて考える機会となった。自然遊びの意義と両輪で個別に配慮しながら保育を展開していく必要性が感じられる。また、「陣地取り」などのように園庭全体の空間にかかわる遊びを挙げた保育者も少なくない。自然遊びの意義についての項目で「その他」を選んだ保育者の中には、体力面や友達関係の記述も見られた。園庭という空間は子どもたちの心身の動きに関する意義も含まれる。さらに、「ジュース作り」や、「洗濯ごっこ」などのごっこ遊びでは、自然材以外の材料や子どもが操作しやすい道具のあり方も大きくかかわっている。人的環境の側面からみれば、園庭は異年齢の子どもたちが交流するという特性もある。このように、園庭の意義の認識や自然遊びについては多様な実態があることがわかる。

かこさとし(1986)は、「石けり」の遊びから、「遊ぶさいに、その大地の土や泥や砂や粘土、小石や砂利の様相の差異、色の変化、しめり気、高低、ときには雑草やアリがいることを知る」「子ども達は遊びを通して、人間のいとなむ生活や社会が入り込んで複雑で変化があり、それに

対応していくのが人間であり、そうした試みに挑戦し、失敗し、工夫し、成功し、そして満足することができる」と語っているが¹⁰⁾、このことは自然遊びが人的・心理的環境にも大きくかかわっていることを端的に表している。また、日名子太郎(2000)は「保育室も保育する」と言ったが¹¹⁾、園庭が子どもを保育する、というこれまでの感覚の内実が本研究で少し明らかになったような感を覚える。

園庭にある砂場や水、草花や木などの自然環境は保育者が意図して用意した空間である。しかし、開園当初の園庭環境の設置に直接携わっている保育者は一握りであろう。園庭の環境がどのような意図で構成されているのかということも含め、今ある環境をいかに子どもの育ちに活かしていけるのか、今後も園庭全体の環境をとらえながら様々な窓口から検討を重ねていきたい。

文献

- 1) 実方伸子、子どもの生活と遊び、厚生労働省大臣官房統計情報部「21世紀出生児縦断調査」(第2～6回)、2008保育白書、(2008) pp.18-19
- 2) 横山 勉、園庭における幼児の遊び環境に関する研究、科研費研究要旨、(2003～2004年度)
- 3) 石倉卓子・竹井史、造形表現を拓く自然材の可能性 ～幼児の“造形的遊び”についての事例的考察～、富山大学人間発達科学部紀要、1(1) p.158
- 4) 谷田貝公昭監修 細野一郎編、保育内容シリーズ環境、一藝社、(2005) p.9
- 5) 石倉卓子、保育内容の指導法に関する一考察～自然とかわる保育環境を通して～、富山短期大学紀要、43(2) pp.7-8
- 6) 富山県知事政策局 広報課 企画・報道係 HP、知ってなるほど！とやまけん
- 7) 幼稚園設置基準(昭和31年12月13日文部省令第32号)
- 8) 溝口 武史・岩崎 洋子 他、幼児の運動と安全の課題について その1 全国私立幼稚園におけるブランコ設置状況と意識について、日本保育学会大会研究論文集、55(2002) pp.662-663
- 9) 河合雅雄、子どもと自然、岩波新書、(1990) pp.224-225
- 10) かこさとし、日本の子どもの遊び(上)、青木書店、(1986) pp.25-26
- 11) 日名子太郎・細野一郎・藤樫道也、保育内容環境、学芸図書、(2000)

